

サーチライト With Pastor Jon 黙示録 第5章 パート③

このメッセージはアップルゲート クリスチャン フェローシップの、ジョン・コーソン牧師が公開したメッセージを、アメリカ在住の日本人クリスチャン木下言波が翻訳して YOUTUBE やブログに上げたものを文字化したものです。世界的なインターネット規制が始まろうとしています。私達はその日のために、文字にして紙に記録する必要を感じました。また、インターネットに不慣れな方や字幕を追って読むのが困難な方のためにも必要があると主に迫られたと感じます。

※インターネットのメッセージを、文章化するこの働きを始めた姉妹が、現在目を患って治療中です。どうか、りょくさんの為にも、お祈りください。

「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにはならない。」ヘブル4:7

メッセージ by ジョン・コーソン牧師 アップルゲート クリスチャン フェローシップ

<http://joncourson.com/>

7590 Highway 238

Jacksonville, OR 97530

訳 by 木下言波 DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>

筆記 by Rin

私たちが天国に行かせるために主がなされたことを見て、私たちは言葉を失うでしょう。打たれ砕かれて、ほふられた小羊。

私たちが小羊を見る時は、少なくとも最初は、打ち砕かれ、ほふられた状態で見ます。

一つ補足するなら、イザヤ書 14 章にはこうあります。

「あなた《サタン》を見る者は、あなたを見つめ、あなたを見きわめる。

『この者が、地を震わせ、王国を震え上がらせ、世界を荒野のようにし、町々を絶滅し、捕虜たちを家に帰さなかった者なのか。』(イザヤ 14:16 - 17)

これは、目を細めて見るということ。

サタンを見る時は、「これが、そうなのか!?!」

「これが」とはどういう意味でしょう。

2通りの見方があって、1つは、余りにも“小者”だということ。

「私たちは、こんなヤツに今まで苦しめられていたのか!?!」

「これが? こんなヤツがサタンなのか!?!」それも有り得るでしょう。

もう一つは、目を細めて「これが!?!」と言う。

その外見があまりにも美しいから。

「巨大なフォークは? 角はどこだ? 黒マントに赤タイツは?」

聖書にはサタンがどうだと書いていますか。

サタンさえ光の御使いに変装するのです。(第2コリント 11:14)

外見は美しい。

これらのことをまとめると、「主よ、私たちが最初に見るあなたの姿は、ほふられた小羊で、それは私たちが望むあなたの姿ではない。

でも、その姿を見て、ようやく私たちは自分の罪の重さを理解し、その罪があなたにもたらしたことを知り、御前にひれ伏すということですか。」

次にサタンを見た時、私たちは言うでしょう。「これが!?!」

敵が支配するこの地上では、『美』について間違った教えがまかり通っていて、全てが逆さまになっているのです。

気をつけて！

今大事だと思っている車、家、何であれ重要ではなく、この地上で大して重要ではないと思っているものが重要になります。

これが、天国の神秘です。

気をつけて！悟って下さい！

私たちは周りを見渡し、小羊イエスを見ます。

7つの角は完全な力、7つの目は完全な洞察力、神の7つの御霊は、完全な神の霊のことです。

文字通りの目が7つあるのではなく洞察力、角が7本あるのではなく力、7つの御霊ではなく彼の上にある完全な御霊のこと。

そしてイエスが来られました。

小羊は近づいて、御座にすわる方の右の手から、巻き物を受け取った。(黙示録 5:7)

彼が巻き物を受け取ったとき、四つの生き物と二十四人の長老は、おのおの、立琴と、香のいっぱいはいった金の鉢とを持って、小羊の前にひれ伏した。

この香は聖徒たちの祈りである。(黙示録 5:8)

鉢。香のいっぱい入った金の鉢。

この香は聖徒たちの祈りである。(黙示録 5:8)

聞いて下さい。

私たちの祈りは失われていません。

天に蓄えられ、鉢の中に保管されています。

事実、ザカリヤも、これにはびっくり仰天したのです。

ルカ 1 章で、年老いたザカリヤは神殿の中にいて、妻のエリサベツは不妊の女でした。

そこへ突然、御使いが現れて、「こわがることはない。ザカリヤ。あなたの願いが聞かれたのです。あなたの妻エリサベツは男の子を産みます。」(ルカ 1:13)

ザカリヤは、「やめてくれ。どういう意味なんだ？そんな祈りは、もう何十年も昔のことだ。」

「私は年老いて、妻ももう若くない。そんなわけがない！祈りが聞かれたとは、どういうことだ！」

ここから分かることは、私たちが祈った様々な祈り、本人はすっかり忘れていたり、何年も半世紀も前に祈った祈りかもしれないかもしれませんが、それでもそれらはまだ、神の中では有効なのだということです。

人生の中で起こる多くの祝福を、私たちはすごく軽く見てはいないでしょうか。

すごい偶然だとか恵みだとか。

でも自分もすっかり忘れてしまっているような、何年も前に祈った祈りにも、神は言います。

「その祈りはまだ失われていない。鉢の中でもうしばらくの間、温めているのだ。」

そして時が来て、その祈りが聞かれた時に、私たちは驚いて言うのです。

「わお!この祝福はどこから来たんだ!?!」

あなたの祈りは、絶対に失われません。

たとえ、それがすぐには応えられなくても、あなたの記憶の中から消え去ったとしても、神の中では消えていません。

皆さん、よく聞いて下さい。

鉢と香。ずっと失われなかった祈り。それと立琴。

聖書では立琴というと弦が 10 本。

聖書の中では、10 という数字はいつも律法に関連しています。

10 と言えば『十戒』

私が最近話をしたある人は、「そんな律法には縛られない!」「そんな類の映画も観るさ。あんなシーン、それらのセリフ、それがどうした!」「律法に縛り付けるな!」

だから私はその人に言ったのです。

「律法のどの部分が気に入らないのか?神が、『神を愛せよ。』と言ったこと?『人に対して思いやりを持ち親切であれ。』『聖く生きよ。そうすれば心に平安が与えられる。いのちは聖いものだから。』これらのどの部分が受け入れられないのか。」

「本当に、“律法主義からの自由”の名の下で、ブタのように生きたいのか。」

主の律法は完璧だと聖書に書いてあります。

律法は魂を生まれ変わらせ、主の証しは真実で、賢者を純真にします。

それらは、金よりも、多くの純金よりも好ましい。

蜜よりも、蜜蜂の巣のしたたりよりも甘い。(詩篇 19:10)

まことに、その人は主のおしえを喜びとし、昼も夜もそのおしえを口ずさむ。

その人は、水路のそばに植わった木のような。時が来ると実がなり、その葉は枯れない。

その人は何をしても栄える。(詩篇 1:2 - 3)

「父よ、あなたが十戒の中で示していることは、私にとって良いことです。」とすることに何の問題があるのでしょうか。

昨日の朝、私は申命記 23 章を読んでいました。

また、陣営の外に一つの場所を設け、そこへ出て行って用をたすようにしなければならない。武器とともに小さくわを持ち、外でかがむときは、それで穴を掘り、用をたしてから、排泄物をおおわなければならない。(申命記 23:12 - 13)

あなたの神、主が、あなたを救い出し、敵をあなたに渡すために、あなたの陣営の中を歩まれるからである。あなたの陣営はきよい。主が、あなたの中で、醜いものを見て、あなたから離れ去ることのないようにしなければならない。(申命記 23:14)

神の律法が言っているのは、つまりこうです。

「排泄をする時は、みんなが陣営を張っている所ではなく、陣営の外で行ない、穴を掘ってそれを埋めなさい。」

これは斬新なことだったのです。

「とんだ律法主義だな。私は自分がしたい所です！」「何なんだ、これは。メチャクチャじゃないか！」「穴を掘って埋めろだって!？ 律法主義だ！」

「モーセ、私たちは恵みの中にいるんじゃないのか？」

今、はっきりと分かりましたね。神の知恵ですよ！

他の人がしているように行っていたら、バクテリアや菌や病気が、排泄物を通して人から人へ感染していくことを、当時は誰も知りませんでした。

でも、神は決してその理由を明かさなかった。

神は、「バクテリアや菌や病気があなた方に害をもたらすし、単純に汚い。だから陣営の外に出てしなさい。」とは言いませんでした

ただ、「わたしは陣営の中にいる。だから、あなた方にはこうして欲しい。」

「わたしはあなたの中にいる。だから、あなたがこうすることを望む。」

「外に出て穴を掘り、それを埋めなさい。」

何世紀も後になって、私たちには、それが知恵だとわかります。

しかし神は、その時は理由を伝えず、何世紀もかかって、私たちがそれを発見するようにされました。

恐らくあなたは言うでしょう。

「アルコールは飲んでもいいんだよ。」「今の時代、みんな行っているよ。」

「こんなの、みんな見ている。」「みんな、ダウンロードしたりチャットしたりしている。カタイこと言うなよ。」

“聖く” 生きることを選んだ人は、心に天国があり、頭の中には歌があります。

しかし、私が“聖くない” 生き方を選んだとしたら、混乱させたり、押しつぶすようなごちゃごちゃしたものが私の内面を占め、私の中の全ての調和を乱してしまう。

これは律法主義ではなく、天の音楽、十弦の立琴です。

天国では立琴が奏でられていて、それは、「主の律法は知恵である」と男女が歌う歌の十弦の美しさなのです。

これは狂信的なものではなく、また天国に入るために、がむしゃらに努力するということでもありません。

それは律法への間違った向き合い方です。

私は恵みによって救われ、恵みゆえに祝福され、恵みを喜びます。

「父よ、あなたが御言葉の中で言われたことの全てにおいて、その意味や目的を見出させて下さい。なぜなら主よ、あなたからの繁栄と幸せと力、そして心に天国が与えられるために、私にとって何が最善であるかをあなたはご存知ですから。」

なぜこんなことを言うかという、私は多くの人々を見て、本当に本当に、残念に思っているのです。

もっとできるはずの人が、“律法主義からの自由”という名の下、愚かな道を歩んでいるからです。祈り。立琴。

たとえ理解できなくても、主が言われたことを守り、主の律法を守ることの美しさ。

はじめは理解できなくても、ただ言うのです。

「主よ、あなたの道は正しいと証明されていますから。」

あと4分で終わります。多分…。

彼らは、新しい歌を歌います。

なぜなら、彼らはほふられた小羊を見、ヨハネはもう泣く必要がないから。

今、立琴は奏でられ、鉢からは賛美と、天に蓄えられた祈りの香が、素晴らしい香りを放っています。

彼らは、新しい歌を歌って言った。

「あなたは、巻き物を受け取って、その封印を解くのにふさわしい方です。

あなたは、ほふられて、その血により、あらゆる部族、国語、民族、国民の中から、神のために人々を贖い、私たちの神のために、この人々を王国とし、祭司とされました。

彼らは地上を治めるのです。」(黙示録 5:9 - 10)

「我々は、その血によって贖われた部族、国語、民族、国民である。」と言える唯一の集団とは誰のことでしょう。

それは、この唯一のグループとは、教会であるべきです。

どうしてそんなに強調するのかと言いたいですか。

これは、御使いや被造物の歌ではなく、贖われた人々の歌で、つまりこれは、大患難が起こる前に天国にいる教会のことなのです。

「ヨハネは天国にいるが、他の人間や教会の存在は記載されていない。」

「歌われている歌の歌詞を見せて下さい。」「誰がこの新しい歌を歌っているのか。」

「主よ！あなたは、巻き物を受け取って、その封印を解くのにふさわしい方です。

あなたは、ほふられて、その血により、あらゆる部族、国語、民族、国民の中から、神のために人々を贖った。」(黙示録 5:9)

これは、教会だけが歌える、教会が歌っている歌。

だから黙示録 5章で教会は天にいるのです。

ここにヨハネがいて、教会の歌が天国に響き渡る。

また私は見た。私は、御座と生き物と長老たちとの回りに、多くの御使いたちの声を聞いた。その数は万の幾万倍、千の幾千倍であった。(黙示録 5:11)

数百万の数百万倍。

教会、長老、被造物…天全体が、ただ主を賛美しているのです。

賛美はいつ始まりますか。

賛美リーダーの指示によって？

違います。

数百万人が地にひれ伏して、大きな声で賛美を捧げるのは、彼らが、ほふられた小羊を見た時です。真の賛美者、生き生きと礼拝する人とは、賛美リーダーや牧師に促されてする人ではなく、イエスが自分のために死んだということを見、理解した人のことです。

「私のために！」「跪かずにはいられない！」「手を上げて、手を叩いて、大声で歌わずにははいられない！そうせずにははいられない！」

誰でも、ほふられた小羊を真に見る人は、気がつけば、真の賛美者となっているのです。

「それは私のガラじゃない。そんなタイプじゃないし。」

ところが、あなたも天国に行けばそうなるのです。だから、今から練習した方がいい。

こういうのは、特に男性に多いのです。

「私はそんなタイプじゃない。誰にも跪かない。歌わない。見ているだけでイイ。」

それでも、とりあえずは救われるでしょう…。多分…。

皆さん、賛美や礼拝に関して、今話したことを言うと、「私は、そのようには造られていない。」ということをよく聞きますが、私はそんな男性に言います。

「神は、そのままのあなたでおらせるために救ったりはしない。神は、あなたを、新しい種類の人間に変えるために救うのです。天国民に変えるために。」

だから、両手を上げて、跪いて、大きな声で歌い、アーメンと言いましょ！

これが本当にできるようになった時、「イエス様、あなたが、私にして下さったことのゆえに、私は聖所に進み出て、あなたを情熱的に賛美します！

あなたは、賛美を受けるべきお方です！」

こうして、人が自然にそこに向けられるように、私はいつも十字架について話すのです。

なぜなら、それが見え、本当に理解した人は、神を愛し、魂で賛美する人になるからです。

賛美の仕方や喜びを教えなくても、賛美についての本を書かなくても、小羊を見た人は、心から礼拝するのです。

天国のこの人たち、彼らはそこにいて御座の回りで、

彼らは大声で言った。「ほふられた小羊は、力と、富と、知恵と、勢いと、誉れと、栄光と、賛美を受けるにふさわしい方です。」(黙示録 5:12)

また私は、天と地と、地の下と、海の上のあらゆる造られたもの、およびその中にある生き物がこう言うのを聞いた。「御座にすわる方と、小羊とに、賛美と誉れと栄光と力が永遠にあるように。」(黙示録 5:13)

また、四つの生き物はアーメンと言い、長老たちはひれ伏して拝んだ。(黙示録 5:14)

ほふられた小羊が、巻き物を手にしたから。

次の6章は、預言に関してとても重要な章です。

私たちの道を尋ね調べて、主のみもとに立ち返ろう。

私たちの手をも心をも、天におられる神に向けて上げよう。(哀歌 3:40-41)